

高次脳機能障がい部会 報告書

会議名	第2回 高次脳機能障がい部会		
開催日時	令和7年10月6日(月) 18時20分~20時30分		
開催場所	板橋区役所 南館6階 教育支援センター研修室		
出席者数	14名	傍聴者数	非公開

第1部 課題の検討

概要	<p>・第1回会議にて、各部会員より高次脳機能障がいに関する課題を挙げていただいたことをまとめ、第2回において、改善策の検討を行った。</p>
主な意見・回答	<p>(1)【家族会の危機】</p> <p>○他区の障がい者福祉センターでは、月に何度か、当事者とそのご家族向けにそれぞれの部屋に分かれ、事業を行っている。 当事者の部屋では、専門職・支援者や職員の方がファシリテーターとして参加し、レクリエーションのようなことを行い、隣のご家族の部屋では、当事者のご家族向けに、心理職の方が個別相談等を行っている。</p> <p>○活動的な家族会だと音楽祭等、イベントを開催している。そこに楽器の演奏ができる一般の方も巻き込み、障がい福祉月間や週間の期間で演奏を披露している。 また、障がい福祉月間でのお祭り等では、別団体のブースに高次脳機能障がい当事者の方が参加し、手伝いを行っている。そこで、お店の方や一般の方に「実は、私は高次脳機能障がいがあり、〇〇の会に所属しています。」などを話しながら家族会の周知を行っている。</p> <p>○家族会の方からも家族会のことについて、積極的に当事者およびその家族等に周知していくことが大切。部会員においても、それぞれ専門があり、高次脳機能障がいの方の対応をする際には、今回の部会のことを思い出し、当事者およびその家族等に家族会のことを周知していくことが改善の第一歩となるのではないかと。</p> <p>(2)【円滑な支援のなごれ】</p> <p>○病院によっては、退院後どのように地域の福祉に繋げていくかについて、あまり対応出来ない病院がある。そのため、家族から退院後どうしたらよいかという問い合わせも多い。 また、ご家族が相談にきても高次脳機能障がい何か分からないため、高次脳機能障がいの説明から入り、家族が病院からサマリーをもらってくるような状況。ご家族の話とサマリーを元に得た情報では、ズレが生じていることがある。また、病院によってはリハビリ計画書すら提出しない病院もあり、その際は、豊島病院に繋げるなどして支援を行っている。</p> <p>○高次脳機能障がいでは、寄り添う形の相談形式が大切。支援について、道筋を描き、「まず、ここまでやってみましょう。そうしたら電話をください」というのが、ワンストップの意味合い。1度支援に繋いで終了ということではなく、繋げ続けていくことが重要。現状、その理想の部分とかなりズレができてしまっているた</p>

	<p>め、今後はそういったことが隠れた課題になってくるのではないか。</p> <p>○豊島病院では、支援機関からの問い合わせがしやすいように相談支援票を作成している。障がい者福祉センターでも作成を検討してはどうか。センターが高次脳機能障がいについて、相談等を行っていることは、あまり知れ渡っていないことが考えられる。そこで、センターで、相談支援票を作成し、各病院のMSWの方などに送付してもよいのではないか。</p> <p>○高次脳機能障がいの相談は、生活困窮や生活保護等、多方面から相談がある。しかし、板橋区を含め、市区町村の中でも精神・知的・身体を担当窓口はあるが、高次脳機能障がい担当の窓口がないことが多い。そのため、市区町村の職員でも、窓口の繋ぎ先が分からない時がある。そこで、板橋区では、障がい者福祉センターがその窓口となっていることを区の職員に周知することが大切。また、周知については、1年で終了といったことではなく、継続的に行うことが必要である。</p> <p>○病院等から、支援者に対し、高次脳機能障がいの方の紹介があった際、支援者が不十分な知識で自己判断し動くと、当事者を検討違いな場所へ繋いでしまう。そのため、区内で繋ぎ先を的確に判断出来る障がい者福祉センターに第一に相談することが大切。 今後、高次脳機能障がいに特化した連携方法を確立するためにこの部会がその役割を果たしていく必要がある。</p> <p>(3)【制度間の制限】</p> <p>○研修については、全職員対象に障がいに関する内部研修があるため、講師等を招いてというわけではないが、高次脳機能障がいへの理解についての資料を掲載できないか交渉をする余地がある。</p> <p>○高齢分野の立場から、高次脳機能障がいについての相談先が分からないことがあるため、ケアマネージャーといった支援者は、相談先や支援内容等が分かるチラシがあると良いのではないか。高齢分野についても、高次脳機能障がいの方で困っている方が、多数いることが想定されるので、そういったチラシがあると、高齢分野の支援者としては良いのではないか。</p>
--	--

第2部 「当事者・家族応援イベント」について

概要	・12月20日(土)開催の当事者・家族応援イベントの内容の確認を行った。
主な意見・回答	<p>○イベント内容の確認</p> <p>第1部 講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障がい当事者に講義をしていただけるよう検討中 (今後決まり次第周知を行う) <p>第2部 当事者・家族交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会等の紹介 ・参加者が班ごとに分かれ交流会 ・交流会で話し合った内容を発表 (第1部・第2部ともにリモート形式で行う予定) <p>○当日の役割分担決め及び各係の従事内容の確認</p>

会議名	第3回 高次脳機能障がい部会		
開催日時	令和8年2月27日(金) 18時30分~20時30分		
開催場所	板橋区役所 南館6階 教育支援センター研修室		
出席者数	11名(欠席者3名)	傍聴者数	非公開

(1) 報告事項(3件)

議題名	高次脳機能障がい者・家族交流会の反省について
概要	令和7年12月20日(土)に開催した高次脳機能障がい部会「高次脳機能障がい者・家族交流会」の反省を行った。
主な意見・回答	<p><u>1.実施したアンケート結果の説明</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1部「講演会」・第2部「交流会」とともに「よかった」・「とてもよかった」が8割以上を占めており、イベントは概ね成功。 ・第2部「交流会」の時間の長さについて、「短かった」と回答した参加者が4割以上おり、第1部・第2部の時間配分の検討が必要。 ・アンケートの自由記述欄より「今回の講演を聞き、自分も頑張らないといけない」等、講演を聞いて良かったと回答している意見がある一方で、「マイクが聞こえないにくい」や「映像が小さい」といった意見があったため、今後の課題も見受けられた。 <p><u>2.部会員からの意見</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二部の交流会の際、当事者やその関係者の方から、貴重なお話を聞くことが出来、大変勉強になった。 ・講演内容が非常に深いものだったので、限られた時間の中で参加者にどの程度伝わっていたかが気になった。

議題名	高次脳機能障害者支援法の概要について
概要	高次脳機能障害者支援法の概要についての説明 (東京都心身障害者福祉センター 守矢課長代理より)
主な意見・回答	<p><u>1.高次脳機能障害者支援法の基本理念について</u></p> <p>→基本理念として下記の内容が明確に掲げられるようになった。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自立と社会参加の機会が確保され、また、尊厳を保ちつつ他者と共生することを妨げられないこと (2) 社会的障壁の除去に資すること (3) 個々の事情に応じ、また、関係者の連携の下に、あらゆる段階で切れ目のない支援が行われること (4) 居住する地域にかかわらず等しく適切な支援を受けられること <p><u>2.施策について</u></p> <p>高次脳機能障がい者および家族等への支援およびその他支援策として医療当事者等への知識等の普及および啓発等への実施が挙げられている(東京都については、既に実</p>

	<p>施している施策も多い)。</p> <p><u>3. 地域支援体制について</u> →下記3つの事項の説明 (1) 高次脳機能障がい支援センターの設置 (2) 専門的な医療機関の確保等 (3) 高次脳期の障がい者支援地域協議会の設置</p> <p><u>4. その他</u> 現在、高次脳機能障害者支援法について、国から概要の発表はされているが、その要綱については、まだ、公布されていない状況。国の要綱が公布されないことには、障害者支援法の具体的な部分までは分からない。そのため、今後、国から要綱の公布といった動きがあれば、それに応じて対応していく。</p>
--	---

議題名	高次脳機能障がい事例報告
概要	高次脳機能障がいについての事例報告
主な意見・回答	<p>各団体よりさまざまな見地からの事例報告</p> <p>(1) 障がい者福祉センター 相談支援の見地から 石川 直幸 氏 山口 圭一 氏 福祉リハの見地から 潮 昌子 氏</p> <p>(2) デイサービスおむすび 利用者支援の見地から 小田 美佳子 氏</p> <p>(3) 竹川病院 ADLの見地から 高橋 捷平氏</p> <p>(4) 豊島病院 医学的見地から 中島 英樹 医師</p>

(2) 協議事項 (1件)

議題名	「今年度の成果」・「次年度の課題」について
概要	「今年度の成果」・「次年度の課題」について協議を行った。
主な意見・回答	<p>主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族会について、発足当初から在籍しているメンバーは高齢化しており、存続させていくのも厳しい状況。単に行政が関われば解決するといったことではなく、今後、存続させていくには、次世代のリーダーとなるような人材を探していくことが大切。 ・部会として、介護・障がい・医療といった様々な分野の方が集まり、ディスカッションが出来たということは、今年度の成果として挙げられる。また、次年度においても、様々な分野の方が集まるこの部会で、困りごと等のディスカッションを出来ればと考えている。
今後の方向性	部会員から現場の現状等の意見を挙げて頂きながら、課題抽出を行い課題改善に向け協議していく。